

第79回 ティムール朝とサファヴィー朝

1 ティムール朝

- ・モンゴル人が建国したチャガタイ=ハン国は、14世紀半ばに東西に分裂した。
→1370年、西チャガタイ=ハン国から、トルコ系の（ ）が自立して、（ ）を建国した。



ティムール
ウズベキスタンの首都タシュケントに立つ。ティムールは右足が不自由なため、「びっこのティムール」と呼ばれた。

☆ティムール朝（帝国）（1370～1507年）

都…（ ） ※現在のウズベキスタンにある

◆ティムール（在位 1370～1405年）

- ・イル=ハン国を征服してイランを支配し、キプチャク=ハン国も攻撃した。
- ・1398年、インドに侵入し、デリー=スルタン朝のトゥグルク朝を攻撃した。
- ・1402年、（ ）で（ ）のバヤジット1世を捕虜とし、オスマン帝国は一時的に崩壊した。
- ・1405年、明への遠征途中で病死した。

◆シャー=ルフ（在位 1409～1447年）

- ・第3代の君主で、都を（ ）にうつした。

◆（ ）（在位 1447～1449年）

- ・学芸を奨励し、サマルカンドに天文台を建設した。
- ・写実的なミニアチュール（細密画）が盛んに描かれた。
→トルコ=イスラーム文化が形成された。



現在のサマルカンド



ウズベキスタンの500スム紙幣

現在でもティムールは、ウズベキスタンの英雄である。10スム=1円くらいらしい。



ウルグ=ベクの切手

天文台を建てたことで知られる、ウルグ=ベクは、マドラサで天文学に関する授業も行ってほしい。彼の暗殺後、ティムール朝は衰退を始めた。

<ティムール朝の分裂と滅亡>

- ・15世紀後半に、サマルカンド政権とヘラート政権に分裂した。
- ・1507年、（ ）を率いるシャイバニの侵入により滅亡した。
→ティムール朝の王族（ ）は、アフガニスタンに逃れた。
→パーニーパットの戦いでデリー=スルタン朝のロディー朝を滅ぼし、インドを支配して（ ）を建国した。
- ・また遊牧ウズベクは、（ ）、ブハラ=ハン国、コーカンド=ハン国を、中央アジアに建国した。



バーブル
メロン大好き。実はインド大嫌い。「ムガル」とはどういう意味か考えてみよう。

2 サファヴィー朝

- ・イランではティムール朝の崩壊後、イスラーム教の神秘主義教団が、キジルバシュと呼ばれるトルコ系遊牧民を中心に（ ）を建国した。



イスマーイール神秘主義教団の教主の息子として生まれ、サファヴィー朝を建国した。「邪悪ほどに美しい」容姿であったと伝えられる。

☆サファヴィー朝 (1501~1736年)

都… () ※現在のイランにある

◆ () (在位 1501~1524年)

- ・1501年、サファヴィー朝を建国し、()の称号を用いた。
- ・()の十二イマーム派を国教とし、国内統一をはかった。
→これ以後、()ではシーア派が主流となり、現在に到る。
- ・西方のオスマン帝国とは、アゼルバイジャンをめぐって激しく争った。
→1514年、チャルディラーンの戦いでセリム1世に大敗した。



現在のタブリーズ

イランの西部にある。イル=ハン国もここを都とした。サファヴィー朝の最初の都とされたが、後にオスマン帝国に奪われた。



オスマン帝国のセリム1世 チャルディラーンの古戦場



トルコとイランの国境沿いにある。サファヴィー朝の騎馬軍団は、鉄砲を装備したオスマン帝国のイエニチェリ軍団に大敗した。私の恩師によれば重要な戦い。

◆ () (在位 1587~1629年)

- ・サファヴィー朝の最盛期のシャーで、オスマン帝国とも激しく争った。
- ・重要な交易拠点である () をポルトガルから奪った。
→対岸のバンダレ=アッバースを拠点にヨーロッパと交易を行った。
- ・1598年、都を () に遷した。
→ () や多くのキャラヴァンサライが建設された。
→「 」と呼ばれるほど繁栄した。



アッバース1世

髭である。鼻毛ではない。イギリスやオランダなど、西欧諸国とも同盟を結び、サファヴィー朝の最盛期をもたらした。



ホルムズ島

ホルムズ島は、ペルシア湾の入口にある島で、非常に重要な拠点であった。島には現在もポルトガルの要塞の廃墟が残っている。

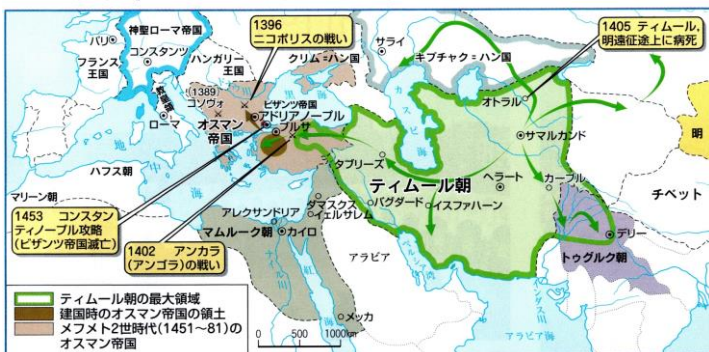


イスファハンのイマームのモスク

アッバース1世の命で建設された。左はモスクの門で、右はモスクのドーム。タイルに描かれたアラベスクは、イラン美術の最高傑作とされている。

- ・1722年、アフガン人により崩壊し、代わってアフシャール朝がイランを支配した。

15世紀(ティムール朝の隆盛)



16世紀(オスマン帝国・サファヴィー朝の発展)

